

I 先行する神の恵み：主イエス・キリストの驚くべき恵み、父なる神の大きな愛、御聖霊の交わり（内住、主と一体化）。互いに愛し合う三位一体の神。

II 教会は、聖霊なる神の働きの結ぶ実、結果。

1. 教会の内に働かれる方は、御聖霊。聖霊は、教会を生み、教会に祝福と命を与えられる。教会の一体性の教理は非常に大切。聖霊は、教会＝キリストの体の正に中心におられ、有機的な命となり、からだのすみずみまで行き渡って下さる。

「御霊は一つ」。

ただ一人の御霊なる神がおられる。その方は、分ける事が出来ない。真の土台がここにある。多くの悪霊が存在している。

「私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです」6：12。

多くの悪霊（墮落した天使達。墮落した天使の長＝悪魔、サタン）が存在する。

それに対し、ただ一人の御霊なる神がおられる。その方が「聖なる」霊と呼ばれている。

聖霊なる神の人格を分割する事は出来ない。それ故、教会の一体性も分割できない。

教会の内におられる聖霊は、単なる影響力、人格のない力ではない。

聖霊は人格を持つ方。父なる神、子なる神と同じ人格を持つ方。

「その方（聖霊）が来ると」その方（人格のない「それ」ではない）は、なすべき事をして下さると主は言われる。聖霊が私達の中で神の業をなさる時、画一的ではなく、それぞれに自由に、生き生きと命あふれる御業を成さる。

2. 聖霊が働かれ主を信じる前の私達。「あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、…私達もみな、かつては不従順の子らの中であって、自分の欲の中に生き、肉（生まれながらの罪の性質）と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした」2：3。

「不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者…盗む者、貪欲な者、酒に酔う者、そしる者」

I コリント6：9，10。

3. こんなに罪深く、滅んで当然な私達への神の恵み＝「しかし、主イエス・キリストの御名と私たちの神の聖霊によって、あなたがたは洗われ、聖なる者とされ、義と認められたのです」6：11。

感謝！私達のうちになされるこの聖霊のわざがなければ、自分の罪を認める事も、自分の罪の為に主が身代わりに死んで下さった恵みも信じる事は出来ない。聖霊の働きなしに、主と一つの体になり、教会に連なる事は決してできない。聖霊は、私達が、自分自身を見つめるようにされる。

自分の問題は、すべきでない事を、どれほどして来たかだけではなく、してはならない事を、どれほどしたいと思っているかにある。聖霊は、その事を心に教えて下さる。

聖霊は、私たちの内に墮落、腐敗、悪、ゆがみ、ねじれた性質がある事を自覚させられる。

自分が神を知っていない事、本当は神に敵対している事、心の深いところでは、神への憎しみがあある事に気付くようにさせられる。私達は、神を利用したがる場所がある。

困った時に神に頼り、そうでない時は、自分の好きなようにしたい。御利益宗教の心。

自分の人生が神に支配（神の支配は、人間の横暴な支配ではなく、私達の最善を願われる支配なのだが）されるのはいやがる。しかし、御聖霊は、私達の心の目を開き、この自己中心の心に気付かせて下さる。また、聖霊は、私達が失われた者である事、私達の心の空しさ、深い悲しみ、を自覚するように導かれる。そして、聖霊は、私達をへりくだらせ、身を低く、謙遜にさせられる。ありのままの自分を見させられる。そして、素直に神に拠り頼む心が与えられる。

Ⅲ聖霊による一致の創造。

1. 聖霊は、私達の罪を認めさせ、へりくだらせ、主を信じさせ、神の愛、恵みを味わわせて下さる。主を信じ、洗礼を受けた後も、ますます、自分の罪深さに気付かせ、へりくだり、神と人に仕える者に変え続けられる。聖霊は、失敗の中に、罪を自覚する中に、恥辱の中に、一致を創造される。自分の罪、欠点を棚に上げて、他の人ばかり、さばいていると、一致が壊される。自分の願いだけに固執すると一致が壊れる。自分の自己中心が砕かれ、謙遜になり、神の恵みがなければ、自分はずっと滅んでいるという自覚が必要。その深い自覚を聖霊は与えて下さる。
2. 聖霊は、私達に新しい命を与え、新しく生まれさせて下さる。聖く愛深い神の御性質を与えて下さる。主を信じる私達のうちに、神からの同じ命を与えられる。言わば、同じ霊的な血が動脈と静脈に流れている。この恵みが、教会の一体性の基礎。
3. 聖霊の大切な働きは、主を賛美させる事。聖霊により主を信じる私達は、祝福に満ちた主を、一緒に見上げさせられる。互いを見て、比較したり、さばき合う事から守られる。共に主を見上げ、この方に栄光を帰し賛美する。地位や誇り、名を高める事を追求する必要はない。
4. 分裂原因は、自己主張、自分本位、自己中心。主を信じるとは、自分の人格を失う事ではない。しかし、主を信じるとは、自分の人格で自分が支配されるのではなく、聖霊により支配される。その時、愛、喜び、平安、寛容に満たされる。扱いにくい、ごつごつとした私達の人格がでしゃばる事はなくなって行く。変えられ続ける希望がある。そこに教会の一致がある。聖霊は一致を生み出される。私達の方は、「謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、平和のきずなで結ばれて御霊の一致を保つ事である。聖霊なる神は、私達の内におられ、優しさと平和を生まれる。
5. 御霊により共に祈る時、教会の一致は強められる！
「どんなときも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目をさまして、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい」エペソ6：18。
祈りのグループ、祈りのしおりを用い！